

西光寺だより

第六十七号 平成二八年 三月一日発行

●今月のことば●

さて今回は「依経段」最後、お釈迦様の登場です。阿弥陀如来のことをわたくし達に伝えてくださったお釈迦様のことを讃え述べられています。

如来所以興出世 釈迦如来が、この世にお出ましになったのは

唯説弥陀本願海 ただ阿弥陀如来の本願（第十八願）をお説きになるため

五濁悪時群生海 **五濁**の世にある一切の人々は

応信如来如実言 釈迦如来の真実のお言葉を信じるべきである

能発一念喜愛心 ふたごころなく（一念）**本願**を信じ喜ぶ（喜愛心）なら

不断煩惱得涅槃 煩惱を断たないままで、**涅槃**を得ることが出来る

凡聖逆誘齊回入 凡夫も聖者も極悪の人も自力心を捨てて信心の道に入れば

如衆水入海一味 川の水が海に入って一味（いちみ）になるがごとく、平等

に救われる

攝取心光常照護 阿弥陀如来の摂取の光明は、常に私を照らし護って下さる

已能雖破無明闇 仏さまを疑わなくなり（**無明闇**を破す）救われた身になつ

ても

貪愛瞋憎之雲霧 むさぼり（貪愛）や瞋（いか）り憎しみの心は、雲や霧の

ように

常覆真実信心天 常に如来からたまわる真実の信心の上に覆いかぶさる

譬如日光覆雲霧 たとえば、日光は雲や霧に覆われていたとしても

雲霧之下明闇 雲や霧の下は明るくて闇がないが如し（救われている事）

獲信見敬大慶喜 信心をいただいたいて仏さまを敬い大いに喜ぶ（慶喜）なら

即横超截五惡趣 **五惡趣**といわれる迷いの世界を即座に飛び越え

一切善悪凡夫人
聞信如来弘誓願
仏言広大勝解者

是人名分陀利華

世間で善人だ悪人だといわれる一切の人々は

阿弥陀如来の本願（第十八願）を聞いて信ずれば

お釈迦様は、広大な智慧を得た者（広大勝解者）とほめた
たえ

この念仏の信心の人を泥沼に美しく咲く白蓮華だとたたえ
られる

弥陀仏本願念仏 阿弥陀仏の本願による念仏の法（教え）は

邪見僞慢悪衆生 誤ったよこしまな考えをもち、おごりたかぶる人々には

信樂受持甚以難 信じること（**信樂受持**）は、甚（はなは）だ難しい

難中之難無過斯 **難の中の難**で、これ以上に過ぎる難しいことはない

（法蔵館正信偈もの知り帳・レッツ正信偈参考）

【解説】

●**五濁**・『阿弥陀経』の「五濁悪世、劫濁、見濁、煩惱濁、衆生濁、命濁」

①劫濁：時代の濁り。残りの四濁により時代が乱れ悪くなることをいう。

②見濁：思想の濁り。他人を顧ず、自己中心的な考えが多くなる。

③煩惱濁：むさぼり、いかり、愚かさなどの煩惱がはびこる

④衆生濁：衆生が墮落する。人間の資質が低下する。

⑤命濁：衆生の寿命が次第に短くなる。

この五濁が満ちた悪い世が五濁悪世でその時代が五濁悪時であります。

●**本願**・・・あらゆる人々を救わずにおかないという阿弥陀仏の根本の願い

●**涅槃**・・・すべての煩惱を滅したさとの境地

●**無明闇**・・・無明とは、すべての煩惱の根本、迷いの根源をいい、その境地

に長く沈んでいる状態を「無明の闇」「無明長夜」など表現。無明とは、

すべての煩惱の根本、迷いの根源をいい、その境地に長く沈んでいる状態

を「無明の闇」「無明長夜」など表現。

●**五惡趣**・・・輪廻とは流れるという意味。衆生が迷いの世界を生まれ変わり

死にかわりして流転することをいう。その流転する迷いの世界を「五惡趣」

とか「六道」といい、五惡趣は、衆生が自分のした悪い行為によって導か

れる五つの世界をいう。

①地獄・地下にある牢獄の意味で、苦しみ極まる世界。

②餓鬼・つねに飢餓に悩まされる世界。

③畜生・鳥、獣、虫、魚など、あらゆる動物の世界。

④人間・欲望に執着することによって苦悩する娑婆世界。

⑤天・天人や天の神々が住み、喜びや楽しみが多いが、まだ欲望にとらわれる迷いの世界。

六道は③と④の間に阿修羅（絶えず対立して闘争に明け暮れる世界）が加わる。

●**信樂受持**：阿弥陀仏が必ず救うとその通りに私たちが救われた事をいう。

●**難の中の難**・お釈迦さまは、阿弥陀仏の教えを「難の中の難」と説かれました。それは念仏往生の教えが難しいからではなくて、私たち衆生の心が疑い深いから。本当に救われるのだろうかという疑いを離れて、他力の信心を頂くことこそ、難しいことだとお示し下さっているのです。

不断煩惱得涅槃 自ら煩惱を断ちきららないまま、悟りを得る事ができる利益。

如衆水入海一味 どんなひとでも平等に救われるという利益。

撰取心光常照護 念仏の行者が阿弥陀仏の光明にいつもおさめとられて護られている利益。

獲信見敬大慶喜 信心を得て大いに喜び敬う人は、仏さまの力によって迷いの世界を離れる事ができるといふ利益。なので、信心を得た人は、仏さまの力によって、輪廻の束縛を超え、仏さま

のさとりの世界に生まれる身に定まるのであります。ここからの四句は、善人であろうと悪人であろうと、阿弥陀如来の本願を信じるならば、仏さまたちにほめたたえられる人となるという利益。

一切善悪凡夫人

これらが、阿弥陀仏の本願を信じさせていたくことによって恵まれる五種の利益であります。だからこそ、お釈迦さまは阿弥陀仏の本願を信じなさいと私たちに勧められたのであります。

◆三・四月の行事◆

・三月二十六日（土）

仏教婦人会総会

午前十一時三十分から追弔会（正信偈）

午後十二時～お斎

午後一時～総会

西光寺本堂

・四月三日（日）

春季永代経法要

午後二時・七時

西光寺本堂

◎御法話 本願寺派布教使 高島 幸博 師（専念寺）

浄土真宗本願寺派 白毫山 西光寺

大阪府茨木市西河原一―七―二

電話 〇七二―六二二―四七九四

FAX 〇七二―六二二―九二九一

<http://www.osaka-saikouji.net/>